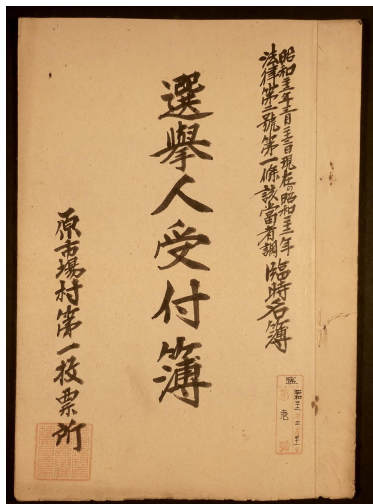




昭和 22 年の選挙人受付簿

飯能市立博物館 学芸職員 中村 岳



【画像 1】選挙人受付簿 (原市場公民館文書-289)

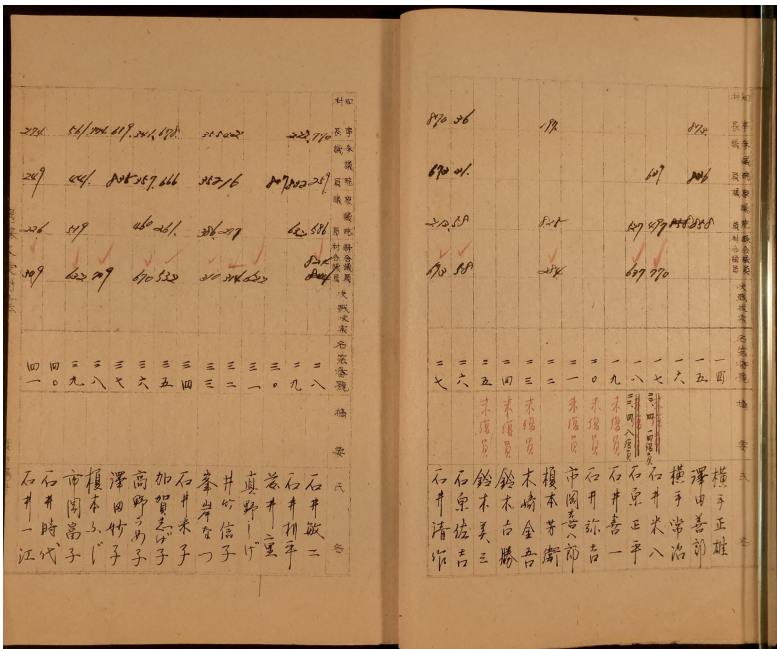
今から 80 年前—昭和 21 (1946) 年 4 月 10 日、日本で初の本格的な女性参政権が実現した選挙が行われました。そこで今月は戦後間もなく、女性たちが選挙に参加したことが分かる記録を紹介します。

本資料は女性参政権実現から、約 1 年後の昭和 22 年 3 月に原市場村（現飯能市原市場周辺）で作成された選挙人受付簿です。まず有権者の名前が記されている下段に注目してみましょう（【画像 2】参照）。見開き 1 ページ内に 28 名の氏名が記されており、右ページには男性と思わしき名前が並びます。そして左ページに目を移していくと、しげ、信子、なつ…と女性の名前がみられます。たしかに女性たちが政治に参加する権利を得たのだと分かるのです。また上段も見てみましょう。各種選挙の受付欄が設けられており、到着番号が記されています。詳しくみると女性と思わしき名前が 11 名見られる中、少なくとも 1 回以上選挙に行った人が 9 名います。女性参政権実現後の

女性の投票率は全国的に低かったというのは事実ですが、こうした記録をみると投票所に足を運んだ女性も少なくなかったといえるのではないのでしょうか。

ちなみに上段に並ぶ複数の受付欄は、戦後社会の激動を伝えてくれます。受付簿が作成された昭和 22 年の 3 月は、日本国憲法施行を 5 月に控えていました。憲法が施行される前に、国会や地方制度を憲法に則したものにすることが必要であり、その準備の真っ只中だったのです。こうした事情から昭和 22 年 4 月の原市場村では村長選、県知事選、参院選、衆院選、県議選、村議選と各選挙が 4 日間に渡って行われました。こうした複数の選挙を円滑に運営するために、この名簿は作成されたのだと思われます。

最後に摘要欄にも注目してみましょう。右ページの男性の名前の上に赤字で「未復員」の文字が確認できます。終戦から 1 年以上が経過しても、戦地から戻ることができずにいる人が市域にも多くいたのです。女性参政権の実現で新たな時代へと動き出す一方で、まだ終わらない戦争に苦しんだ人がたくさんいたこと。戦後間もない社会の光と影を伝えてくれる一品です。



【画像 2】最下段が氏名、上段が各選挙の受付欄

受付欄は上から①知事・村長、②参議院、③衆議院、④県会・村会となっていて、6 種 4 日間にわたる選挙への参加記録がのこっている。